令和８年度　草の根無償資金協力
「中央マショナランド州タナカ初等学校校舎建設計画」に資金供与

日本政府は、草の根無償資金協力（GGP）を通じて、非政府組織（NGO）のワールド・ビジョン・インターナショナル・ジンバブエに対し、ジンバブエの子どもたちの学習環境を改善するためのプロジェクトに資金を提供することを決定しました。これに関連して、2026 年 10 月 26 日、前川信隆駐ジンバブエ日本大使と NGO 団体の代表との間で本プロジェクトに係る贈与契約文書への署名がなされました。プロジェクトの概要は以下のとおりです。

「中央マショナランド州タナカ初等学校校舎建設計画」は、ワールド・ビジョン・インターナショナル・ジンバブエによって実施されるもので、98,244 米ドルの資金が供与されます。本プロジェクトで支援するタナカ初等学校は、同団体がマショナランド州ムビレ郡における教育の質を向上させるため、2022 年に 10 区で２校目となる公立学校として設立したものです。同地域における教室不足は依然として深刻な問題となっており、現在、タナカ初等学校でも６年生と７年生（11～12 歳の子ども達）の受け入れができておらず、生徒たちは自宅から７km 以上離れた別の学校へ通わざるを得ない状況にあります。また、幼児 A・B クラス、１年生、２年生、４年生の各クラスは教室の定員を大幅に超えており、入れ替わりで屋外での学習を余儀なくされています。

更に、教員宿舎も大きな課題を抱えています。ジンバブエでは通常、通勤距離の問題から学校に教員宿舎が併設されていますが、現在、タナカ初等学校には 10 名の教員に対して６名分の教員宿舎しか用意されていません。残り４名の教員は、教室の隣に併設されている約 10 平方メートルの狭隘な準備室にて寝泊まりしています。このような劣悪な生活環境は、教員の離職を招き、学校運営に悪影響を及ぼす恐れがあり、このことから教員宿舎の増設が急務となっています。

本プロジェクトでは教室棟２棟、トイレ棟１棟及び教員宿舎１棟が建設され、プロジェクト完了後は６年生と７年生の受け入れを開始できるほか、全ての生徒が屋内の適切な学習環境下で学ぶことができるようになることが期待されています。

署名式で前川大使は、草の根無償資金協力の重要性を強調するとともに、このプロジェクトが各地域社会に良い影響をもたらすことを期待すると述べました。さらに、ジンバブエの将来の世代を担う人々に、更なる可能性と希望をも

たらすため、実施団体がプロジェクトを確実に実施することが重要であると強調しました。



被供与団体代表及び大使が署名を実施



集合写真